

## G 1 0閣僚宣言<sup>1</sup>

- 1 G 1 0閣僚は、今回、米国、EU、ブラジル及びインドのいわゆる「G 4」において意見の収れんが可能でなかったこと、また、「G 4」がマルチの議論において積極的な貢献ができなかったことを残念に考えている。
- 2 G 1 0閣僚は、ドーハラウンドを成功裏に終結させるためには、寿府におけるマルチのプロセスが強化される必要があるとより強く認識した。
- 3 また、G 1 0は積極的にマルチのプロセスへの貢献を約束すると再度明言した。G 1 0は、これまで表明してきたように<sup>2</sup>、(G 1 0の考え方を)インプットし、また、各分野の議長が、透明性が高く包括的な方法による議論を追求する上で必要なペーパーを発出する際の手助けとなるよう、G 1 0は各分野の議長と深く協力する。
- 4 全加盟国が受け入れられるバランスのある結果に到達するためには、全加盟国の貢献が必要である。DDAの開発という側面をふまえ、全加盟国のそれぞれの発展状況とともにそれぞれのセンシティブな事項が考慮される必要がある。
- 5 G 1 0閣僚は、全分野に渡り全体的にバランスのある「一括受託方式」の必要性を強調した。よって、NAMA、サービス、ルール等を含む全分野の交渉を並行的に進展させる必要がある。

---

<sup>1</sup> アイスランド、イスラエル、日本、韓国、リヒテンシュタイン、モーリシャス、ノルウェイ、スイス、台湾。

<sup>2</sup> 添付資料 「G10 から G4 へのメッセージ」 2007 年 6 月 17 日発出